

2026年新年祝賀レセプションにおける挨拶(1月24日)

大矢大使の後任として1月12日に駐マラウイ日本国大使として着任しました内藤康司と申します。新年明けましておめでとうございます。大使館主催の新年会に、マラウイ中から遠路はるばるご参集頂きましてありがとうございます。私どもにとってはご挨拶させていただくありがたい機会であり、後ほど皆様の活動について教えて頂ければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

自己紹介をさせていただきます。私は在外勤務は南アフリカを、プレトリアとケープタウン含めて4回赴任、最近ではG20の準備まで合計22年、ケニアは2006年の選挙暴動時に2年間、パースでは総領事を2年半勤めました。東京ではアフリカ第二課、無償資金協力課、総合外交政策局、JICAアフリカ部でもお世話になり、内閣官房野口英世アフリカ賞担当室を含め、パース以外はほぼアフリカを歩んできました。TICADは1993年の立ち上げ前から関わっています。家内は、ヨハネスブルグ日本人学校の文部省派遣教員をしていましたところ、南アで結婚し、子供達もアフリカで生まれ育ちました。

マラウイに7代目の日本大使として赴任するお話を頂き、これまでアフリカで学んだことを投入して恩返しができるかと楽しみにしておりました。マラウイ隊員の木村直さんによる「マラウイ絵日記」をSNSで見て想いを馳せつつ、赴任の日を指折り数えていました。

人と人の絆をつなぎ、日本の素晴らしさを伝え、アフリカ人の良さを引き出す仕事を、現地で厳しい環境のなか現場で奮闘される方々の活動を支えながら展開できることは大変幸せなことと思っております。

マラウイはJICA海外協力隊員の派遣数が世界で最も多く、the Warm heart of Africa「アフリカの温かい心」と称されるほど国民性が穏やかな親日国と聞いて参りましたが、赴任してまだ2週間ですが、周囲のマラウイ人のホスピタリティには驚くことばかりです。

62年にわたる日本とマラウイとの外交関係の中で培われてきた友好と信頼をさらに深めて参りたいと思います。海外協力隊員の活動についても、誠実な日本人の素晴らしさの輝きが一層増すよう、皆様の活動をサポートさせていただきます。バイでは届かない厳しい現場で活躍される国際機関の皆様にもお話をうかがえることを楽しみにしております。

累計1964名のマラウイへの海外協力隊員、3000名を越えるJICA研修、そして国際機関経由の協力を通じて培われた人と人との絆はかけがえのないアセットです。日本とマラウイの架け橋となる方々の情熱と意欲は二国間関係の推進力となっています。赴任前にJ-WAVEの長井優希乃さん、掛け算ソングの田仲永和さんにもお会いしました。お二人とも昨年のJICA海外協力隊60周年記念式典を盛り上げて頂いた方々ですが、お話をうかがい、日本のことマラウイのことを日本とマラウイに広く共有する前向きなパワーに感銘を受けました。こうした人的関係は、大学間協力、自治体、スポーツ、科学技術の分野でも広がりつつあり、大使館としても全力でサポートして参ります。

先週 J I C A マラウイ事務所の所員の方々のブリーフを受けましたが、担当する各分野の説明の熱量に強い印象を受けました。日本はマラウイへの国際協力を通じて、国際空港、変電所、水力発電所、灌漑開発、教員養成大学等を支援して参りました。昨年 TICAD 9 で発表したナカラ回廊開発は、サプライチェーン強化と、地域の開発にとり重要イニシアチブであり、ナカラ回廊の要衝マラウイでもリロングウェ橋が日本の協力で完成し、近くマラウイ政府に引き渡しを行う予定です。

リロングウェ橋に象徴される「友好の架け橋」とも言える協力が、マラウイの経済開発に効果的に資するよう協力を進め、貿易投資面では、インフラ、農業、鉱物資源、社会課題解決型の取り組みを含め、さらに多くの日本企業の皆様にビジネスチャンスを紹介し、相互の利益に資する協力と発展を目指したいと思います。

T I C A D の度にアフリカ担当者達は T I C A D に集まり、楽しもう、巻きこもう、新しく作り上げようの掛け声で盛り上げて来ました。毎回、大変な会議調整の嵐に巻き込まれますが、アフリカの首脳の間僚たちはアフリカの将来のため、若い日本人達が汗をかいて走り回る姿に感銘を受けています。掻いた汗の分だけ日本とアフリカの距離が近づいたと実感できるのが T I C A D の醍醐味です。担当者の工夫と配慮で歴史だってかわるかもしれない。そしてやり遂げた達成感は何にも代えられません。マラウイの地でも友好の輪をさらに広げてゆければと思います。マラウイは山田耕平さんのエイズ予防ソングが大ヒットした国です。強い意欲で現地の方々に想いを伝え続けければ、世界だって変わることを世に示した国です。皆様のご活躍を心から応援しております。

大使館として、引き続き邦人の皆様の安全を守る情報発信と領事サービスを積極的に行って参ります。昨日、衆議院が解散となり在外選挙についてご案内をさせて頂いております。当地での生活面を含めてお困りのことがあればお気軽にご相談下さい。

安全と健康が何より大切です。この公邸内には J I C A 海外協力隊の皆様の安全を願い初代大使が 2 0 0 9 年に植樹されたモリンガの木があり、元気に育っています。どうか無理はなさらず注意をして大切な任務を遂行されるよう重ねてお願い申し上げます。

最後に、大藤禎明料理人をご紹介します。大藤シェフのお祖父様、お父様も御高名な料理人としてご活躍されましたが、ご本人はキューバでカストロ大統領をもてなし、アフリカではマリで退避の直前まで 8 年間、テロの爆弾音が聞こえる中でも公邸料理人をつとめられたフレンチシェフです。今年から在外公館料理人制度のもと、あらためて「食の外交官」として活躍されます。今回も厳しい環境で頑張っておられる皆さんによるこんでもらおうと、張り切って準備をしてきました。どうぞ皆様本日は料理を堪能し、ゆっくりと楽しんで頂ければと思います。

どうもありがとうございました。

(了)